

ジェットスキーシーズン到来 マリンスポーツもチューンド版が楽しい

とても一人では動かせないのがジェットスキー。皆さんのお世話になります。



こうやってラクチンに乗ることも出来ます。

ジェットスキーといえば、今や誰もが知っている名前だけど、これはカワサキの登録商標、ヤマハ製のはマリンジェットと呼んでいます。そしてわたしが普段大阪湾で遊んでいるのはカワサキの550SX。

で、今回試乗するのもつつきこれのチューンド・バージョンと思つたら、フジツボさんが持つてきたマシンは、今アメリカで人気の650X-2というタイプ。カラーリングも派手でとってもアメリカンしている。一応レーシングバージョン(X-2 Limited)というクラス)ということで納得。

フツーのジェットスキーというとハンドルポールが上下に動いてライディングポジションは立ったままバランスをとるタイプが一般的でもX-2のライポジは中腰か立つかのどちらかのポジションで走るタイプ。座れば2人乗りもできるつらうやつ。

でも「こんなウチ初めてや、メチャビビります」という愛ち

では、頑張らせていただきます。わたしの不安とギャラリーの期待(チノコッチャ)に応えていざ、スタート。エンジンはかるく一発でスタート。

ヒエーツ、凄い加速感。気持ちいいわ。スタート前のあの不安は一体どこへ、わたしは海の上を風のように駆け抜け——と思つて

いたのはどうやらわたし一人の様で、まわりからは「もっとアクセル開けるー!」つまりスピードが出でていないつちゅうわけや。「そんなこと言つたかで、怖いやんかー

うなみにジェットスキーの速さは排気量によるけど、60km/hも出てしまうのです。このチューンドX-2ならば70km/hはかかる。ひょとしたらみんなでわたしの事いじめません? 水の上での体感スピードつて、陸上の2倍以上なんですね。

ジェットスキーはアクセルを開けていれば、まっすぐ走つている時は安定していますが、ただそれだけではどんどん沖に行つてしまつます。そこで曲がらなきやいけない。ここが重要な点で、ジェットスキーの奥の深いところでもあります。スピードが乗つたターンのみるに見かねて模範演技をしてくれたスラッシュの高橋コーチ(オレがジェットスキーの先生だ)と言つていたにしてはよくかけていたけど)のポイントは、この

キャブレターはダウンドラフトタイプ。ジェットスキー自体が左右にフルパンクするので、フロートを持たずにダイヤフラムで混合ガスを送る。



鏡のよう見えるのがステアリングノズル。中に見えるのがインペラ。ここで吸い込まれた水がジェット噴流となって吐き出されるのだ。ノズルはステアリングの動きに応じて動く。右側に見えるホースが冷却用の水路。



2サイクル2気筒エンジンを積むX-2。パワーはスタンダードで520S。白いボリタンクは混合ガソリンが入るタンク。青く塗装されているのがチャンバーだ。このチューンドX-2なら60psを発揮する。



エンジンスタート、ストップは左のスイッチで。



アクセルは右手でレバーを押す。転倒してもアクセルがオフして、ジェットスキーがセルフクリーニング(ライダーのまわりをアイドリング状態でグルグルまわってくれる)。



ジェットスキー本体下部からのぞくと水の取り入れ口がよく分かる。底部はスピードに乗りやすく安定性を高めるコーンケーブが両本も入っている。

ようやくX-2に慣れてきたと思つたら、あつさり大横転。ここからがタイヘン、魔の再スタートです。実はわたしはいわゆる力ナヅチですねん。

ハンドル固定のこのタイプは、後ろから乗るとハンドルまでが遠い。しかもバランスがとりにくいくらいがタイヘン、魔の再スタートです。実はわたしはいわゆる力ナヅチですねん。

X-2の場合体重は後ろにかけたほうがバランスよく走れる。そして常にアクセルは開けているというのがスーパー・テク。クルマと同じでスピニシテク。アクセルを開けた方がうまくいくつてのと同じね。再スタートも後ろからバランスよく乗り込めば、バランスだつて。そしてこのX-2、パワーも中速以上の伸びがグリード。

と、ジェットスキーにはスリルが満点。わたしイチオシのマリンスポーツです。皆さんも免許を取りつてぜひチャレンジしてください。

(森田愛子)